

校長先生の初恋物語

第8話 運命の席がえ



よしこさんが、大好きでした。好きになったきっかけは、笑顔です。よしこさんが笑うと、なぜかまわりはお花畑が広がります。幸せな気持ちになれるのです。ダンプさんも大好き♡ですが、ダンプさんが笑ったとしても、ざんねんなことにお花畑が見えたことはありません。とっくんにとって、

よしこさんは太陽です。

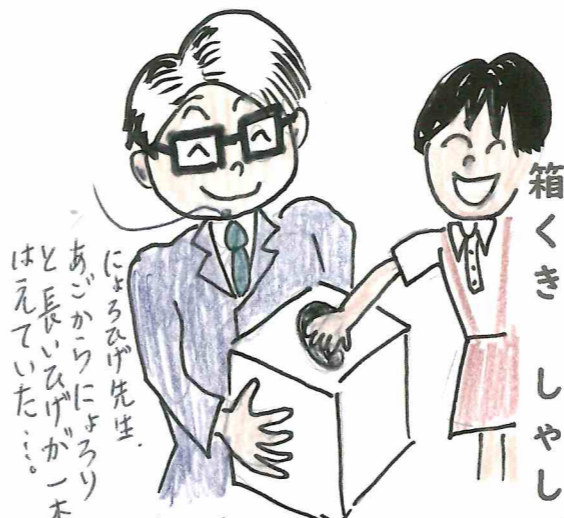
そんなよしこさんとせっかくいっしょのクラスになれたのだから、どうしてもとなりの席になってみたいと思っていました。ですから、席がえは、とっくんにとっては運動会よりも卒業式よりも、大切な行事なのです。

席がえのある日は、朝、早起きしてお仏だんに手を合わせます。神だなにも手を合わせます。朝日に向かっても手を合わせます。もう、手を合わせる相手は何でもいいんです。とにかく、願いを叶えてくれそうなもの全てです。

「神様、仏様、どうかよしこさんのとなりの席にしてください。これからは宿題をしっかりとやりますから、お願いします。」いろいろなものをお願いしてから、学校に行きました。

決戦の場、教室の雰囲気も、席替えのある日はいつもと違って、空気ははりつめています。特に足長君は、いつもとは違った顔をしています。よしこさんの隣をゲットしたいという気持ちが顔で分かります。他の男子も足長君と同じで、いつもよりぴりぴりしています。この日は男子全員がライバルです。

担任のよろひげ先生が、席替え用のくじをつくりました。とうとう、運命のくじ引きです。



よろひげ先生、あんなに緊張しては、ええ長いくじが一本だけ

一人ずつ、よろひげ先生の所に行き、箱の中のくじをひいていきました。とっくんは、緊張してきました。どきん、どきん。

よしこさんが最初の方にくじをひきました。そのしゅんかん、男子は全員おしやべりをやめて、よしこさんに注目しました。よしこさんがひいたのは、一番前の席でした。よしこさんは自分の机を一番前に移動させ、いすに座りました。そのとなりの席は、大丈夫、まだあいています。とっくんはほっとしました。足長君はにやりとしました。

足長君がくじをひきました。「神様仏様、足長君はよしこさんの隣になりませんように。一番へんな席になりますように。」必死にお願いしたら、神様は願いを聞き入れてくれました。足長君がひいたくじは、一番後ろ、よしこさんとは一番離れていました。さらに足長君のとなりは、ダンプさん。ダンプさんに、なさけない精神をきたえてもらえばいいんです。

さあ、いよいよとっくんの番が来ました。心の中で、最後のお願いです。

「神様仏様、お願いです。一生のお願いです。よしこさんのとなりの席にしてください。十分お願いした後に、よろひげ先生の所まで行きました。どきん、どきん・・・」

箱の中に手を入れます。何枚かの紙が、指にあたります。「この中の一枚が、よしこさんのとなりなんだ。」よくかきまぜて、その中の一枚をつかみました。びりびりびりびり。指先から全身に、電気が走ったような気がしました。これにちがいない。とっくんは確信し、その運命の一枚を箱の中からゆっくり出しました。その紙に書いてあった、とっくんの新しい席とは・・・



次回予告 バラ色の人生

校長先生の初恋物語はいかがでしたか？
またいつか、この物語の続きが出せたらいいなあ。ばいばい!!